

# 会派視察研修報告書

平成29年2月13日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 鈴木 みのり

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員2名分の視察研修報告書を添付いたします。

|      |   |
|------|---|
| 参加議員 | 鈴木みのり・小池友妃子                                   |
| 日時   | 平成29年2月8日（水）～2月9日（木）                          |
| 視察先  | 群馬県草津町、富岡市                                    |
| 研修内容 | 草津町：最終処分場の現状と今後の展望について<br>富岡市：ふれあいの居場所づくりについて |
| 日程   | 2/8 草津町 13:30～14:30<br>2/9 富岡市 9:00～13:00     |
| 備考   |   |

# 視察研修報告書

平成29年2月13日

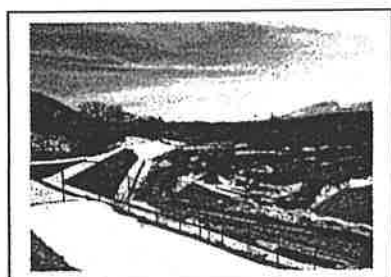
議員氏名 鈴木みのり

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

## 記

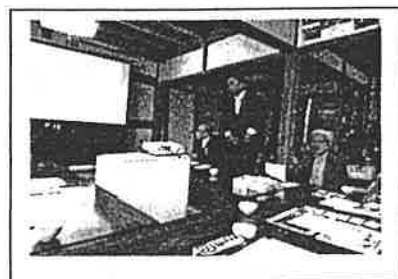
- 1 期間 平成29年2月8日（水）～平成29年2月9日（木）
- 2 視察先 群馬県 草津町・富岡市
- 3 視察の種類 会派（みらいクラブ・公明党合同）視察
- 4 視察の成果等

今回の視察は、公明党との合同視察で群馬県の草津町と富岡市へ行ってまいりました。まず、草津町では福田副町長と桜井議長より丁寧なあいさつに始まり、急遽のお願いから、現地視察（下記写真）も手配していただきました。ただ、宿泊もせず、温泉にも入らずに次の視察先へ行くことにはビックリされてしまいました。しかし、当市にとって大変重要かつ心配な最終処分場の今後が確認できたことは、私にとっては10年越しの希望視察先でもありましたので、本当によかったと思います。



次に、富岡市は全国でもここしかないのでは、と思える事業を積極的かつ精力的に行っておられました。それは、行政は基本的にノータッチで、NPO法人“ふれあいパーク岡成”は国から直接補助金を毎年800万円の3年間交付され、かなりの事業を展開されていました。中心人物は市議会議員でもありNPOの会長でもある春山邦雄議員で、1時間以上の熱弁をしていただきましたし、それ以外の理事の方達も

同じモチベーションで説明をしていただきました。正直何処にでもある（失礼ですが）居場所作り事業かと思っていましたので、頭の下がる思いでした。これはおそらく全国モデルとして広まりそうな感触を得ました。おそらく一般質問をされると思いますので、バックアップしていき、当市もさらにバージョンアップした取り組みをしていただきたいと思います。今回も皆さんに、感謝感謝の2日間でした。



# 視察研修報告書

平成29年2月10日

議員氏名 小池 友妃子

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

## 記

- 1 期間 平成29年2月8日（水）～平成29年2月9日（木）
- 2 視察先 群馬県 草津町・富岡市
- 3 視察の種類 会派（みらいクラブ・公明党合同）視察
- 4 視察の成果等

### 1) 群馬県草津市 「最終処分場の現状と今後の展望について」

ごみの最終処分場として、碧南市は、5つの場所をお願いしている。そのうちの1つである群馬県草津町にある(株)ウィズウエストジャパンへ出向き、現状と今後の展望について確認した。

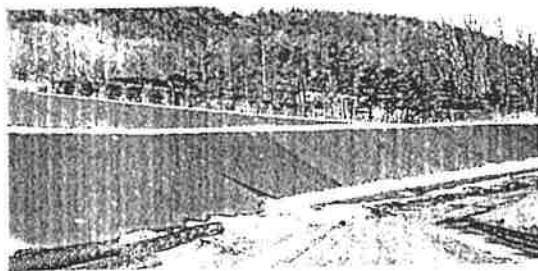
(株)ウィズウエストジャパンは、一般廃棄物最終処分場であり、処理する廃棄物は、焼却灰、ばいじん及び不燃物残渣。平成20年11月19日に許可。埋立地面積41,866㎡。埋立地の容量850,000㎡。受入自治体及び年間受入量は約90団体 180市町村。搬入量年間10万トン程度。衣浦衛生組合からの受入実績は年間600トン（平成22年搬出開始）。平成28年12月31日現在処分場の残余容量：271,817㎡。残余年数：3年（平成32年3月まで）。その後の動向については、現在新たな処分場を(株)ウィズウエストジャパンにて計画中。

(株)ウィズウエストジャパンは、地元の人を雇用して跡地利用での植栽及び作物の管理（ドーム型植物工場）や地域住民の施設内公園、跡地利用への解放等、地域行事への参加で地域貢献を果たしている。

今後の課題として、最終処分場は減少傾向にあり、関東・中部エリアでは、十分は確保がされず、広域移動で対応している状況。廃棄物の減量化、リサイクルを推進しても副産物は発生し、最終処分先の確保が、課題。



(草津町役場)



(ごみ焼却灰処分場)



(ごみ焼却灰処分場)

## 1) 群馬県富岡市 「ふれあいの居場所づくり」

群馬県富岡市では平成23年度から「ふれあいの居場所づくり」を推進。『ふれあいの居場所』とは、年齢や性別を問わず誰でも気軽に集い、自由な時間を過ごすことができる場所。また、ふれあいの居場所を運営する人は、趣味や特技、知識と経験を生かし、その場所で様々な活動をすることができる。ふれあいの居場所が地域にあることで、支え合い・生きがい・社会貢献・介護予防・孤立予防・世代間交流など様々な効果が生まれ、市民同士が支え合う絆の深い地域づくりの拠点となる。

ふれあいの居場所づくりは、箱モノを作るハード事業ではなく、地域の方々に「お互いがどうやって支え合っていたらよいか」、あるいは「住み慣れた場所で生きがいを持って暮らしていくためにはどうしたらよいか」ということを十分考えていただきながら、市民の皆様によって立ち上げていただくソフト事業。

富岡市は、このふれあいの居場所を通じ、近隣同士が支え合い助け合う「ずっと住み続けたい」と思える絆の深いまちになるよう、市民の皆様と一緒に居場所づくりを進めている。

### 富岡市健康福祉部高齢介護課の取り組み

2025年問題 誰もが住み慣れた場所で、人と人とのつながり溢れる中で、自分らしく生きがいを持って暮らしていきたいとの思いがある。そこで絆の深い、活気ある富岡市を作りたい！行政に頼らず住民同士が支え合い、地域づくりに参加していくために、「ふれあいの居場所づくり」に取り組む。

H23年度：ふれあいの居場所づくり勉強会3回開催

H24年度：ふれあいの居場所立ち上げ勉強会3回開催・先進地視察2回・9か所設立

H25年度：8か所設立・地域包括ケアのまちづくりフォーラム開催

ふれあいの居場所ネットワーク連絡会設立

H26年度：1か所設立（合計18か所）

H28年度：3か所設置（合計21か所）

### NPO法人ふれあいパーク岡成の取り組み

、地域の方が一致協力して設立した協働法人。

荒廃していく里山・平地林（竹林含む）を「福祉、教育、観光等」との連携した「地域コミュニティ・集落の再生・地域活性化」を掲げて地域の皆様のご意見、ご要望を十分尊重しながら、小野地域の里山・平山林が本来持っている快適環境形成や土砂災害防止、保健・レクリエーション機能等公益的機能の維持増進を図るとともに、地域の安全・安心な生活環境の創造に寄与することを趣旨としている。

H23. 12第1回勉強会開催後、平成28年に農林水産省に地域購入交付金を申請（1年800万 3年間）。居場所づくりとして里山づくり整備計画案を作成。約4万㎡の畑や田んぼを生かして6つの事業（健康づくり事業・山菜の里づくり事業・果樹園づくり事業・学校山整備事業・6次産業事業・教育の場事業）と高齢者生きがい就労を推進。

### 視察を通じて

お年寄りの居場所づくりに取り組んでいる自治体は多いが、ふれあいパーク岡成は、赤ちゃんからお年寄りまでの、居場所づくりに取り組まれている。現在は、昔から比べると、地域やご近所でのコミュニケーション機会が減って、大人の社会でも子供の社会でも、地域のつながりが薄くなってきている。お年寄りなどの孤立・孤独の問題や、情報不足による消費者被害、あるいは子供の遊び場がない、遊び方や大人との関わり方がわからない等多くの問題を抱えている。東日本大震災を通じ、私は、地域の支え合いがいかに大切かということ学んだ。だからこそ、今ある地域の絆を深め、住民同士が共に助け合うような地域づくりが必要だと考え、今回の視察先を私は選んだ。

富岡市に行き再認識したのは、今まさに、その絆を深め、支え合う体制をつくる時だということ。碧南市も意味あるふれあいの居場所づくりが必要だと感じた。そのためには、行政主導の助成ありきの居場所づくりではなく、住民自らの自由で豊かな発想を持って、『自分たちの居場所を作り上げていこう』という気持ちの上での居場所づくりが必要。お金のかからない運営の方法を考えるなかで、居場所づくりに関する様々な相談に職員が親身になって対応できるような制度

を作る必要があると感じた。

居場所づくりを通じて、たくさんの笑顔が生まれ、安全安心で、『ずっと住み続けたい碧南市』となるよう取り組む必要があると感じた。



(ふれあいパーク岡成にて)

